



2019

本年もよろしくお願ひ申し上げます

理事長挨拶



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

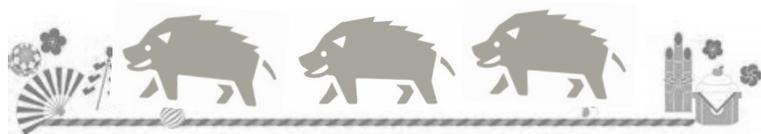
ぱれっとに対する多大なるご寄付や物品のご提供、並びにボランティア参加での活動支援等、事業全般においてたくさんのご協力ご声援をいただきました皆様には心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

昨年は、グループホームや福祉作業所に大きく影響した障害福祉サービス費の改定がありました。サービスの質の向上を目的とした、各事業所の自助努力を意図的に図ったものですが、とりわけ、作業所の売上アップを目指し、利用される方の平均給与のレベルで給付費の単価にランクが設けられたことは、作業所によっては非常に厳しい運営を強いられた結果となりました。おかし屋ぱれっとも例外ではなく、元々全国平均工賃より高い給与を支払ってきた自負はありますが、しかし、年間給付費は、改定前より低くなったのは事実です。精神障害の作業所では、年間1人当たりの人件費分給付費が減った作業所もあり、大変な状況になってきています。利用者の方に向けたサービスの質の向上は努力する必要があると思いますが、その陰で、働く支援者の待遇が低下している状況は、益々福祉現場に人が集まらない悪循環を生んでいます。

昨年から1年かけて、地元金融機関西武信用金庫様からの支援を受け、社会保険労務士の方を派遣して頂き、キャリアパス制度構築とスタッフの賃金制度改善に向け、大幅な舵取りを行なっています。こうした制度の見直しの一つに、離職率の低下を目指す目的があります。スタッフ一人ひとりをしっかり評価し、やりがいとモチベーションアップを図ります。

また、拠点も構えて3年目に入る今年ですが、ステークホルダーと共に、中期ビジョンを描きます。ぱれっとの移転計画時に中期計画を策定し、「だれもがつながり、新しい生き方を生み出せる拠点づくり」としてスタートしました。「当たり前の生き方」から、「その人らしい生き方」と、与えられる暮らしから自分が望む暮らしへと、世の中の考え方もシフトしてきています。既に中期ビジョンを描くための策定委員会が発足し、2回会議を行なっています。これからのぱれっとは、時代をどうリードして変革を遂げていくのか、新しいことにチャレンジしてきたぱれっとの方向性をみなさんと共に考えていく、そのような年にしたいと考えております。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

（認定NPO法人ぱれっと 理事長 相馬宏昭）





各事業からご挨拶

ぱれっと事務局

明けましておめでとうございます。昨年4月に第五期渋谷区障害福祉計画が始まり、就労支援や生活支援、芸術の分野においても、今までにも増して官民の共働が推進された一年となりました。しかしながらこの計画に沿って、基幹相談支援センターやグループホームなどの施設整備が進む一方で、運営にあたる事業者不足、各現場の人手不足も顕在化し、他業種や企業と比較しても厳しい雇用条件の中で、どのように福祉の現場に人材を確保していくか、引き続き大きな課題を背負ってのスタートとなります。

事務局は対内的には全体統括、対外的には様々な窓口として、そして理事会と現場をつなぐ機関としても重役な役割があります。事務局を構成する各現場の事業責任者には常に広い視野が望まれています。基本を忘れず今年も頑張ってまいります。(事務局長 南山達郎)

たまり場ぱれっと

明けましておめでとうございます。2018年は、様々なたまり場行事が開催され、たくさんの方々にお越し頂き大変感謝しております。特に昨年は、いろいろな場所にお出かけをした1年のように感じております。ボランティア主体が特徴のたまり場では、各イベントで多くのボランティアにご参加頂きましたが、宿泊行事をはじめとする一部の行事や運営等で、不足となる現場もありました。そんな中でも、日々の開放日や絆ミーティングでは、運営ボランティアをはじめ、利用者の方々にも積極的に企画等でサポートいただき、絶えず活動を盛り上げて頂きました。ダンスやパソコン等のクラブ活動では、新たな企業ボランティアとのつながりや新規イベント出演が生まれ、より一層賑やか且つ目覚ましい活動となりました。今年もさらなるつながり・ひろがり生まれる、活気あるたまり場を目指し邁進してまいります。(職員 吉岡悠真)

おかし屋ぱれっと/工房ぱれっと

明けましておめでとうございます。昨年は春に1名退職、夏に1名入職とメンバーに入れ替わりがありました。メンバー19名、職員6名で、おかげさまで慌ただしくもほがらかに新年を迎えることが出来ました。これもお客様、販売や協働の機会を下さる企業、製造をサポートして下さるボランティアの方々、親の会の皆様…支えてくださるたくさんの方々の存在があってこそです。おかし屋ぱれっとは今年、開業して34年となります。働くメンバーには高齢化や家庭環境等、様々な変化が表れてきています。スタッフは今後これまでの支援以上に、個々の変化に合わせた柔軟な対応が求められることになるでしょう。その中でも、これまで大切にしてきた「働きがい」「やりがい」を支援するという大きな根を見失うことなく進んでいきたいと思っております。今年もどうぞよろしく願いいたします。(所長代理 玉井七恵)

えびす・ぱれっとホーム/しびや・ぱれっとホーム



明けましておめでとうございます。昨年は職員の入退職等により支援体制の厳しい中、現場の安全を第一に考えショートステイ事業の受け入れを一時的にストップする等、維持存続に徹した一年となりました。そんな状況を察してか、入居者自身が進んで掃除や片付けの手伝いをしてくれたり、お互いを尊重し気遣う様子がそこかしこで見受けられました。そんな彼らの成長が現場スタッフの原動力に繋がっていることは言うまでもありません。新年を迎え、気持ちも新たに、ぱれっとホームが目指す中長期的な方向性を定める必要があります。職員の人員確保に期待がもてない中、これまでとは違った発想で、暮らしのあり方を考えていく必要があります。簡単なことではありませんが、そこで暮らす人、働くスタッフ、支えてくださる多くの方たちが、その人らしく健康的に暮らし続けることを目指して、チャレンジの年明けです。(施設長 菅原睦子)

ぱれっとインターナショナル・ジャパン (PIJ)



明けましておめでとうございます。海外との交流・支援を目的とするPIJは、昨年もアジアの国々との交流を実施しました。一昨年に引き続き、PIJからモンゴルの知的障がい者親の会の視察やモンゴルからぱれっとでの研修では、成年期にある現地の障がい者の社会的自立に関する多くの課題が見えてきました。それを踏まえて、9月にはぱれっとの働く場である「おかし屋ぱれっと」の通所員が訪問し、現地でクッキーづくりを通して働く意味を考える場を計画しています。また、ぱれっと親の会の代表も同行し、モンゴルの親たちとのミーティングでは親が抱えている問題について話し合います。12月には「アジア知的障害会議」がネパールで開催されます。日本発達障害連盟では日本からの参加者を募ることになり、ぱれっとも参加を希望しています。今年も海外との繋がりがさらに深まる1年に期待しているところです。(代表 谷口奈保子)

ぱれっとの家 いこっと



新年あけましておめでとうございます。昨年のいこっとは、新たな入居者も迎え、人間関係を大切にしたり暮らしづくりの土台を築くことができた1年となりました。

広報の側面では、35周年記念シンポジウムにおける「都市型地域社会」をテーマとしたパネルディスカッションや、障がいのある本人がいこっとでの暮らしについて発信する「にじいろでGO!」への参加など、外部の方々と繋がりながら、いこっとの暮らしを伝える機会を増やすことができました。

年始には1月にサポットの会メンバーで一日かけてのミーティングを鎌倉にて行ないます。中長期的な視点も含めて、いこっとの事業の方向性を定め、新たなチャレンジをしていく準備を整えていくことができればと思います。

(いこっとサポットの会リーダー 黒澤友貴)